丁卯
新刻 前編

敵討岡崎女郎衆

(上)

山東京傳作
醉放逸人画

へ13
2787
1

へ13
2787
表
1961
141
改メ

○敵討岡崎女郎衆　全部六冊　通油町仙鶴堂梓

おんなどと女郎衆おぐぐ紀女郎ちゃのハ。ぱぱの女郎ちゃのとの小説八。
甚だ大変流の一節切にわ也て。ひとりが今ふ殘生ふ。
つゞて一奇談と古老のかたりつゞけ紙混色にて。此一回の物語
と八。なるなり。并に秋坂が孝行の哀。甚東小陸の傳。小室節
起り。蛇業右衆つ蛇塚の縁故。鴛鴦の貞節感嘆。
一談。名物鴛鴦鴛鴦ぶしの来由。混じて。前編三冊。
後編三冊。合して全部六冊〳〵。児女の慰草とぞ。若
片言隻辞も。勸懲の一端とゝ事あ〳〵ハ。作者の幸
甚〳〵かんとゝ

文化三年丙寅八月
稿成同四年丁卯
正月發兌

山東京傳作

宮
萩

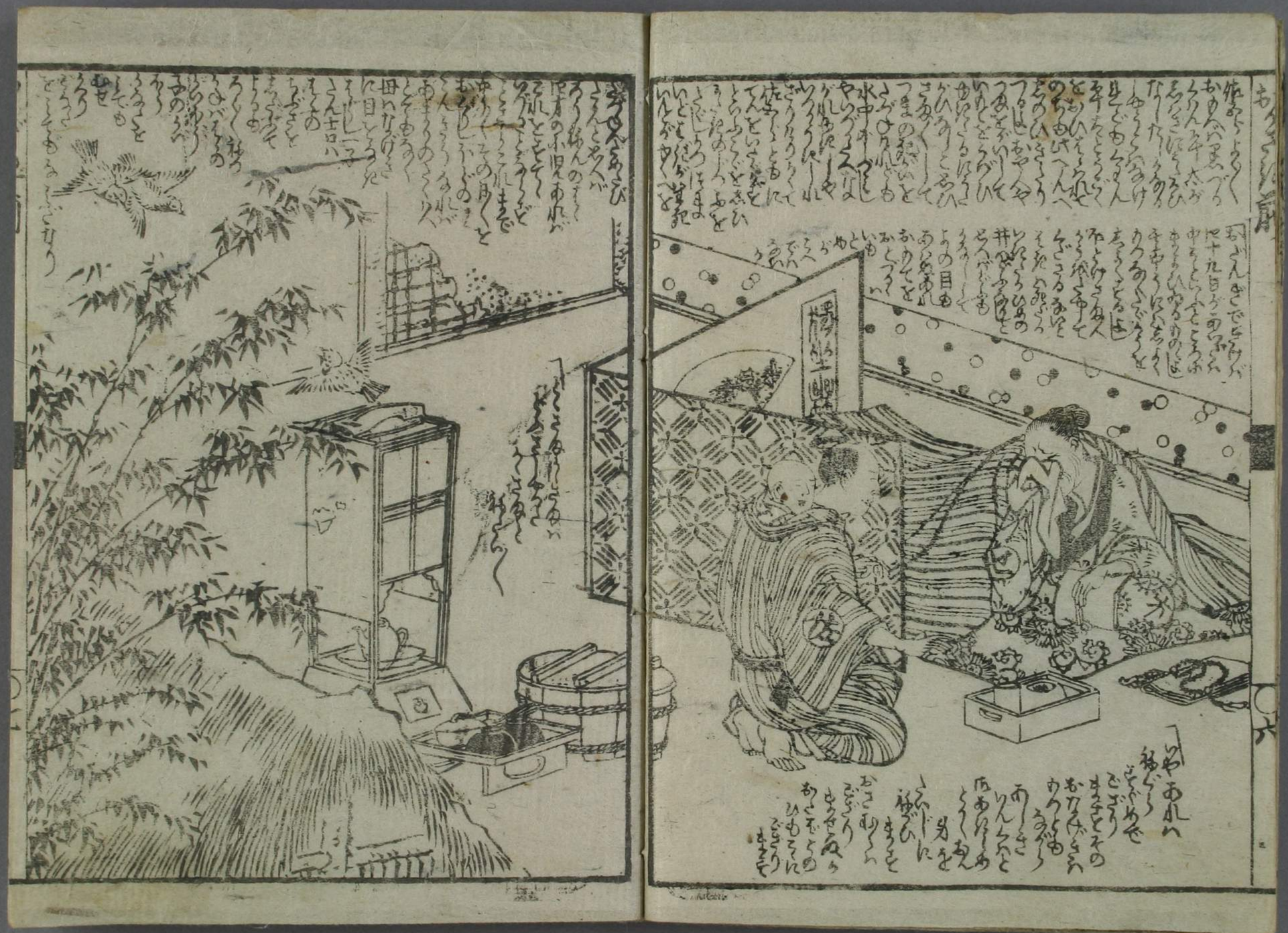
丁卯
新刻 前編

山東京傳作
醉放逸人画

東京研究所蔵書

敵討岡崎女郎衆 中

(5)



佐

丁卯
新刻 前編

敵討岡崎女郎衆 (下)

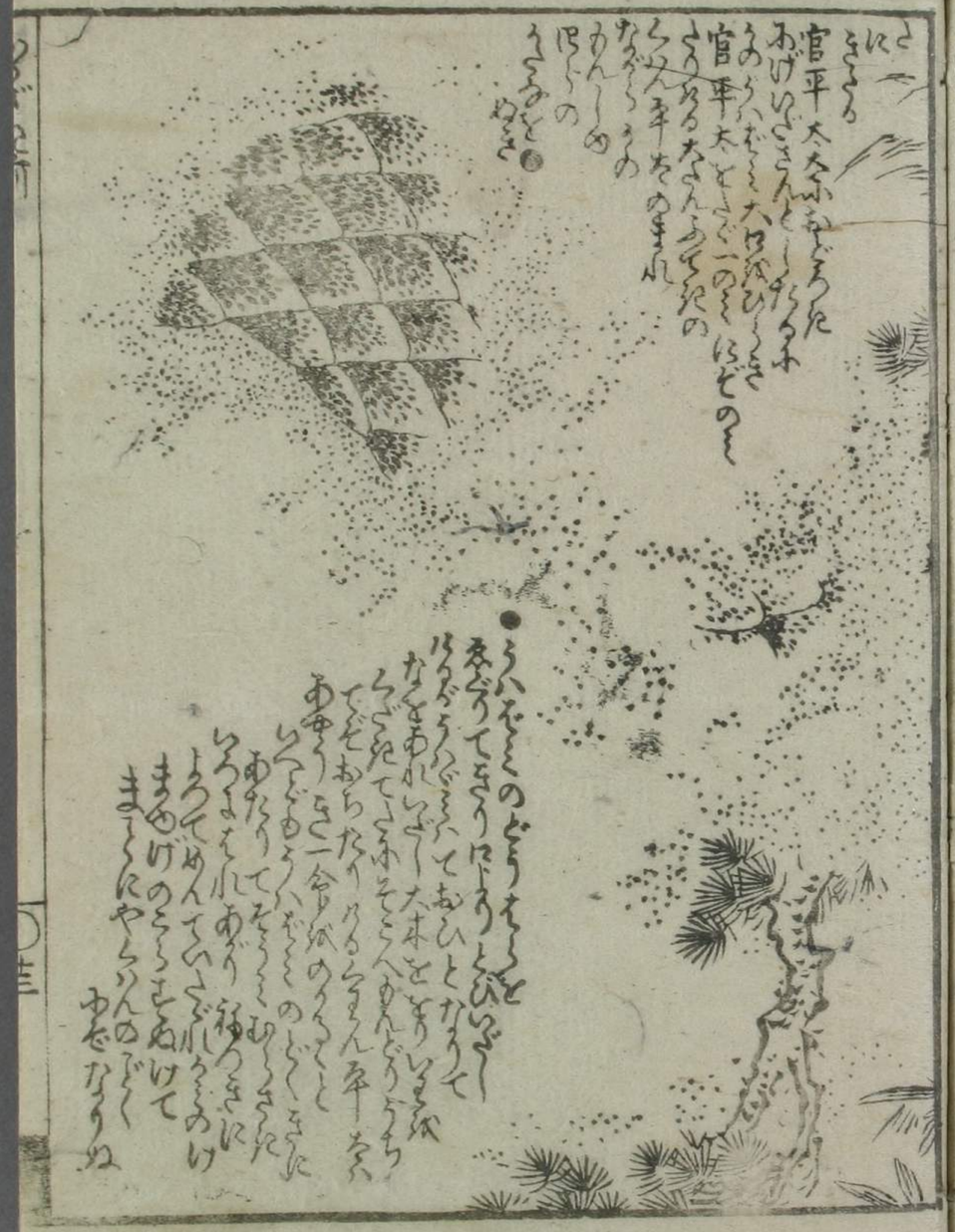
山東京傳作
醉放逸人画

○京傳作うとゝ忠義傳といふよみ本
○同作あさろのぬま後日のあだあだといふこと
出来やい

六冊

ざこし六冊

宮



おそめ
ひろの井
小ゆきと
なをくて
おそめ
ひろの井
ひなん
世に
まれなる
ひなんを
そなへ
ものの
ちりの
ちり
ものの
ちり
ものの
ちり
もの

京傳作

奥へ
ゆきまつまた
奥之御
福島